

このまちの100年

「芦屋」

明治後期頃より大阪・神戸などの実業家らが芦屋へ移り住むようになり、全国に名だたる住宅地へ発展しました。六麓荘は開発が昭和初期からと遅かったものの、現在では日本有数の高級住宅地として知られています。



昭和10年頃

昭和3年から開発されて、日本有数の高級住宅地となった芦屋市の六麓荘町



昭和10年頃

芦屋川に架かる国道2号の橋である、業平橋。橋の名の由来は平安時代の歌人、在原業平から



大正15年頃

大正8年に竣工した芦屋公会堂。当時は精道村で、村立の建物だった



昭和35年

三八通り商店街一帯は古くから芦屋の中心的な商業地であったが震災後消滅。名称は昭和3年8月に組織化されたことに由来



昭和39年

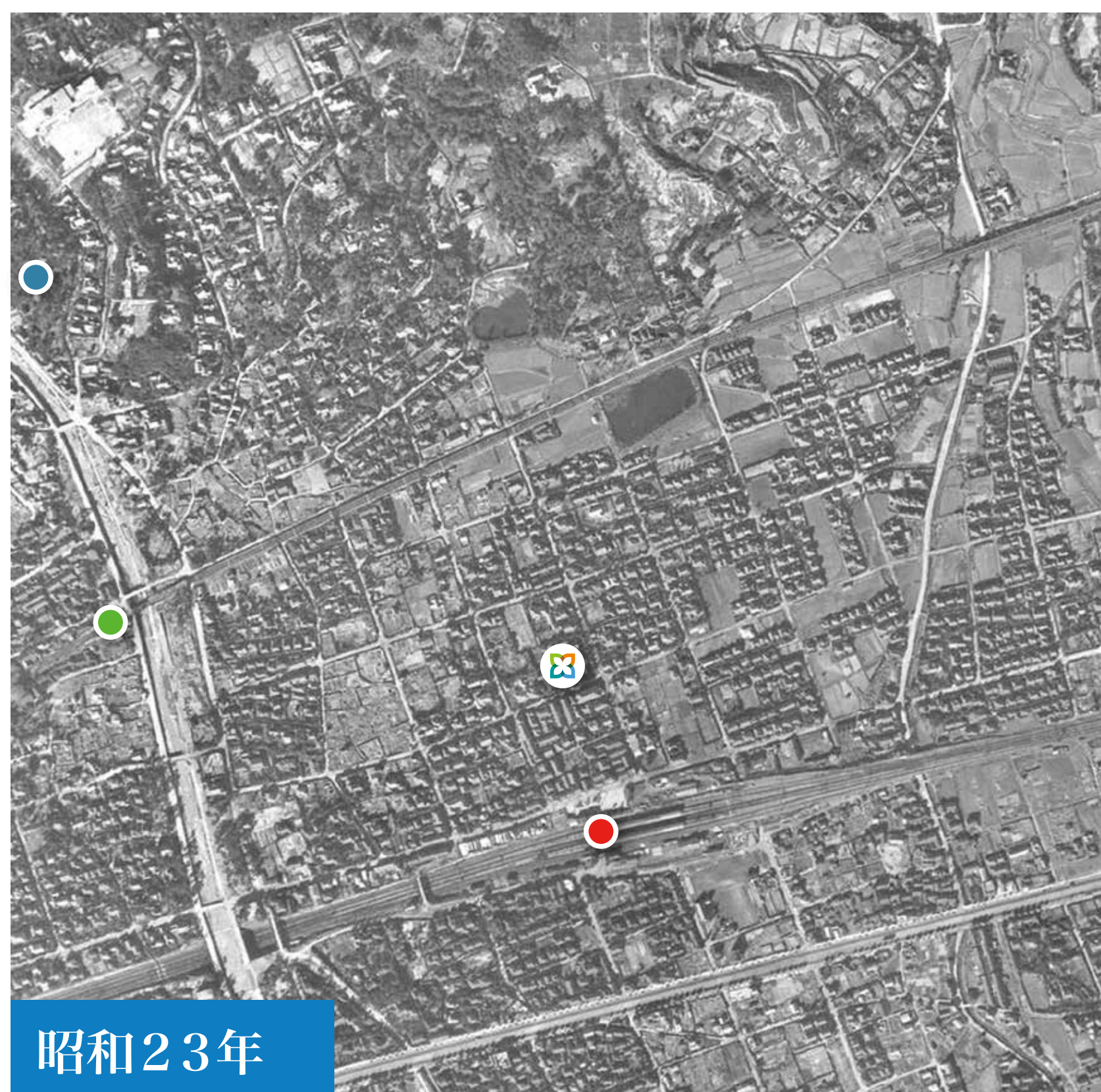
大東町アパート群を空から見た様子



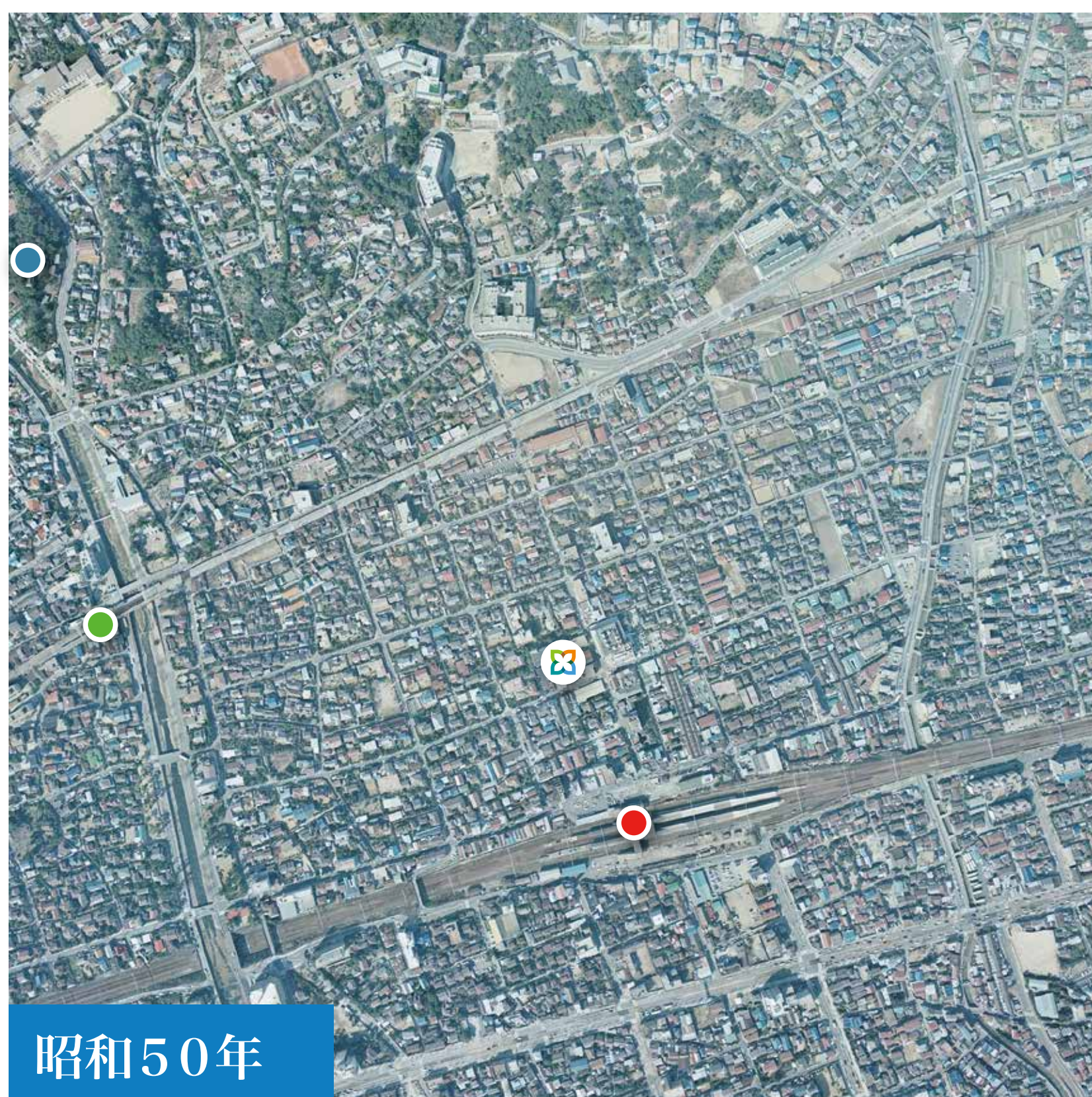
昭和49年

建設が進む芦屋浜シーサイドタウン

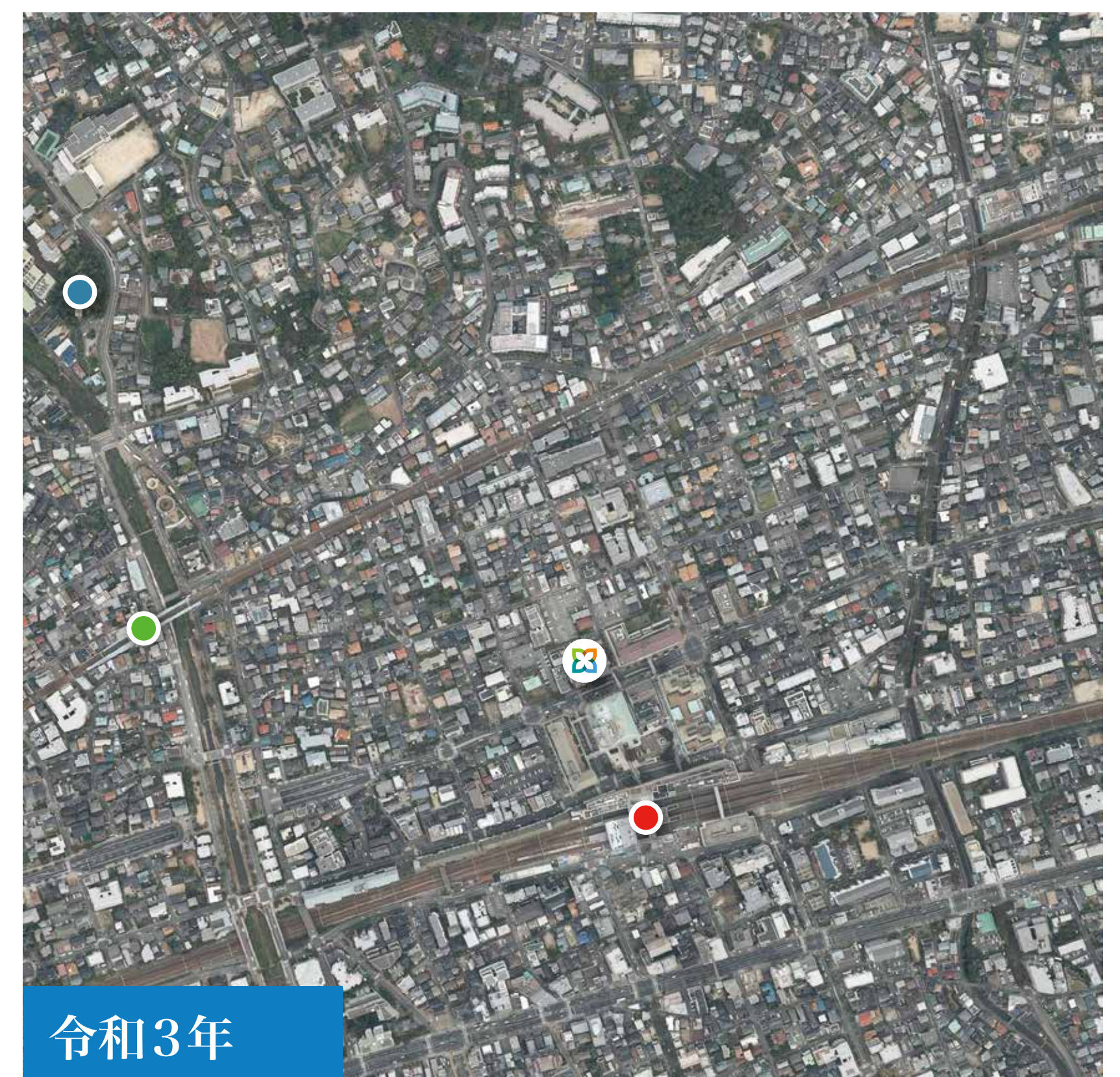
上空からみた芦屋エリア



昭和23年



昭和50年



令和3年

：現在地
：旧山邑家住宅／ヨドコウ迎賓館 ：芦屋川駅 ：芦屋駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」（一部加工）

編集：株式会社コロマチ